

注意

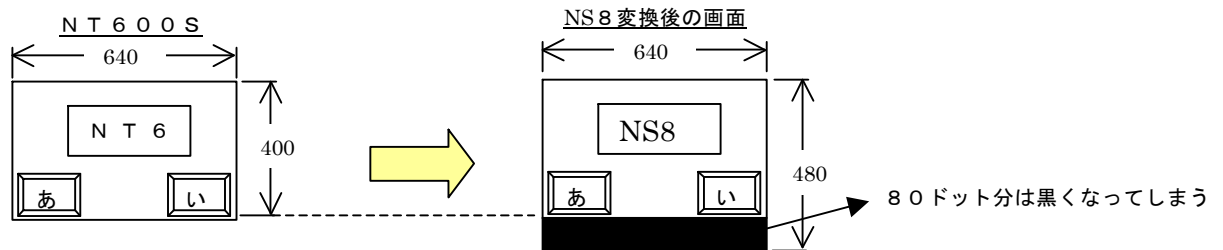
当資料にてNT600SをNS8に置き換えるには、以下の条件が必要です。

1. NS8本体のシステムバージョンがVer7以上であること
2. NT31C_631C置き換え支援ツールがVer4.10以上であること

NT600S→NS8 置き換えガイド

<置き換えに際しての注意点>

- ◆NT600S（640×400ドット）とNS8（640×480ドット）では表示解の違いにより、コンバートソフトによる画面変換だけではNS8変換時に画面の下側80ドット分が黒く変換されます。



- ◆NS8に変換後、各画面をグループ化し画面右下をつまんで80ドット分を引っ張れば、NS8の画面全体表示が可能になります。
但し、タッチスイッチ／ランプのフォントの大きさを除き各部品は縦に $480 / 400 = 1.2$ 倍の大きさになります。
詳細はP16の「1-2-1）[4. NS8画面データの修正](#)」を参照して下さい。
- ◆NT600Sの通信方式がRS-232C（コマンド）通信は、NS8のメモリリンクと通信コマンドが大きく異なりますので、ホスト側のプログラムの再作成が必要になります。
詳細はP23の「1-4-2）[2. ホスト側プログラムの変更](#)」を参照ください。
- ◆NT600SのC200H I/F通信方式は、NS8の上位リンクあるいはNTリンクに置き換えられます。画面データはNT600S→NS8に変換することで使用できます。上位リンク／NTリンクに置き換えるにあたっては、既設PLC側のRS-232Cポートが必要になります。詳細は、P26の「1-4-3）[4. C200H I/F置き換え時の通信ケーブル接続方法](#)」を参照ください。

NT600S-211(B)-V□(EL)の画面データをNS8に変換する場合、NS8の画面をEL画面と同じ「橙と黒」に変換することができます。
詳細はP14の「3. NS変換画面をEL色（橙と黒）で変換したい場合」を参照ください。

置き換え対象機種

形式	通信方式
<STNモノ液晶> NT600S-ST121(B)-V□	上位リンク (RS-232C)
<EL> NT600S-ST211(B)-V□	NTリンク(1:1) (RS-232C)
	NTリンク(1:N) (RS-232C)
	C200H I/F
	RS-232C(コメント)方式 注1



リニューアル推奨機種

形式	通信方式
<TFTカラー液晶> NS8-TV00(B)-V2	上位リンク (RS-232C)
	NTリンク(1:1) (RS-232C)
	NTリンク(1:N) (RS-232C)
	メモリリンク (RS-232C)

形式	通信方式
<STNモノ液晶> NT600S-ST121(B)-V□	三菱A計算機リンク (RS232C)
<EL> NT600S-ST211(B)-V□	



形式	通信方式
<TFTカラー液晶> NS8-TV00(B)-V2	三菱A計算機リンク (RS232C)

注1：NS8のメモリリンクに置き換えます。但し、画面データはNT600S→NS8に変換することで使用できますが、通信コマンドに互換性がないので、ホスト側のプログラムの再作成が必要になります。

1-1: NT600SとNS8の主な仕様について

置き換え機種：NT600ST121(B)-V□

NT600S-ST121(B)-V□とNS8-TV00(B)-V2の主な仕様は以下のとおりです。

項目	NT600S-ST121(B)-V□	NS8-TV00(B)-V2
外形寸法(W、H、D)	275×192×71mm	232×177×48.5mm
推奨パネルカット寸法(横×縦)	263.5×180.5mm	220.5×165.5mm
表示デバイス	白黒STN液晶	カラーTFT液晶
有効表示エリア(横×縦)	192×120mm (8.9インチ)	170.9×128.2mm (8.4インチ)
表示ドット数(横×縦)	640×400ドット	640×480ドット
視野角	左 50° 右 40°	上50° 下60° 左右:±65°
定格電源電圧	DC24V	←
消費電力	15W以下	25W以下
使用周囲温度	0~50°C	←

NT600S-ST121(B)-V□とNS8-TV00(B)-V2に関しては以下の違いがありますのでご注意ください。

1) 外形寸法について

外形寸法はNS8の方が小さくなります。

(W: 43mm小さい H: 15mm小さい D: 22.5mm小さい)

2) パネルカット寸法について

NS8のパネルカットはNT600Sより小さくなります。NS8置き換えかえの際は、別売りのアタッチメント形NS8-ATT01(P26参照)を制御盤に取り付けることで既存のNT600SパネルカットにNS8を設置できます。

3) 表示部の見栄えについて

NT600SとNS8では表示デバイスも表示ドット数も違いますので見栄えが大きくかわります。

4) 電源について

電源電圧は同じですが、NS8の消費電力は25W以下とNT600S-ST121(B)-V3の15W以下に対して増加します。電源容量に不足が発生しないようにしてください。

5) 盤内配線について

電源端子台や232Cコネクタの配置がNT600S-ST121(B)-V□と異なっていますので、P5の「1-2: 電源端子台と各コネクタの位置について」の寸法図を参考に、配線の変更をお願いします。

置き換え機種：NT600ST211(B)-V□

NT600S-ST211(B)-V□と NS8-TV00(B)-V2 の主な仕様は以下のとおりです。

項目	NT600S-ST211(B)-V□	NS8-TV00(B)-V2
外形寸法(W、H、D)	275×192×71mm	232×177×48.5mm
推奨パネルカット寸法(横×縦)	263.5×180.5mm	220.5×165.5mm
表示デバイス	EL	カラーTFT液晶
有効表示エリア(横×縦)	192×120mm (8.9インチ)	170.9×128.2mm (8.4インチ)
表示ドット数(横×縦)	640×400ドット	640×480ドット
視野角	左 80° 右 80°	上50° 下60° 左右:±65°
定格電源電圧	DC24V	←
消費電力	25W以下	←
使用周囲温度	0~50℃	←

NT600S-ST211(B)-V□と NS8-TV00(B)-V2 に関しては以下の違いがありますのでご注意ください。

1) 外形寸法について

外形寸法はNS8の方が小さくなります。

(W: 43mm小さい H: 15mm小さい D: 22.5mm小さい)

2) パネルカット寸法について

NS8のパネルカットはNT600S-ST211(B)-V3より小さくなります。NS8置き換えかえの際は、別売りのアタッチメント形NS8-ATT01(P26参照)を制御盤に取り付けることで既存のNT600S-ST211(B)-V□のパネルカットにNS8を設置できます。

3) 表示部の見栄えについて

NT600SとNS8では表示デバイスも表示ドット数も違いますので見栄えが大きくかわります。

4) 電源について

電源と消費電力とも同じです。

5) 盤内配線について

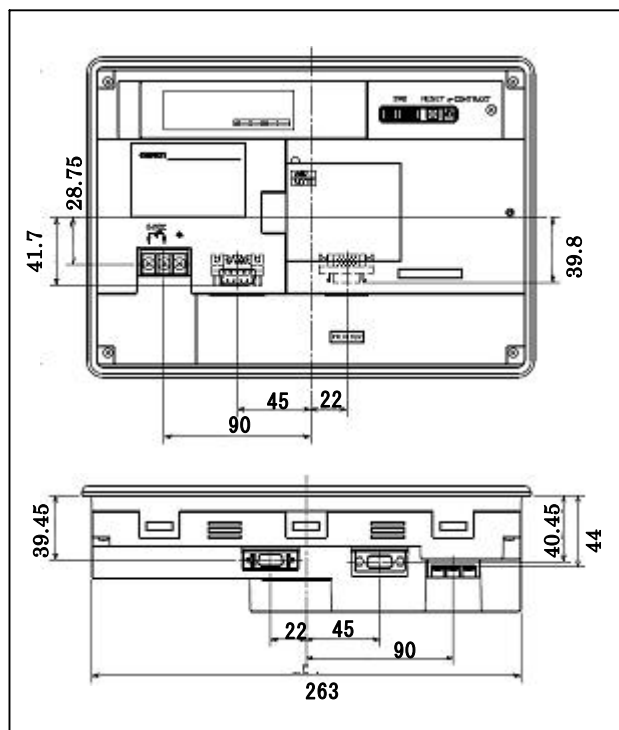
電源端子台や232Cコネクタの配置がNT600S-ST211(B)-V□と異なっていますので、P5の「1-2:電源端子台と各コネクタの位置について」の寸法図を参考に、配線の変更をお願いします。

1-2 : 電源端子台と各コネクタの位置について

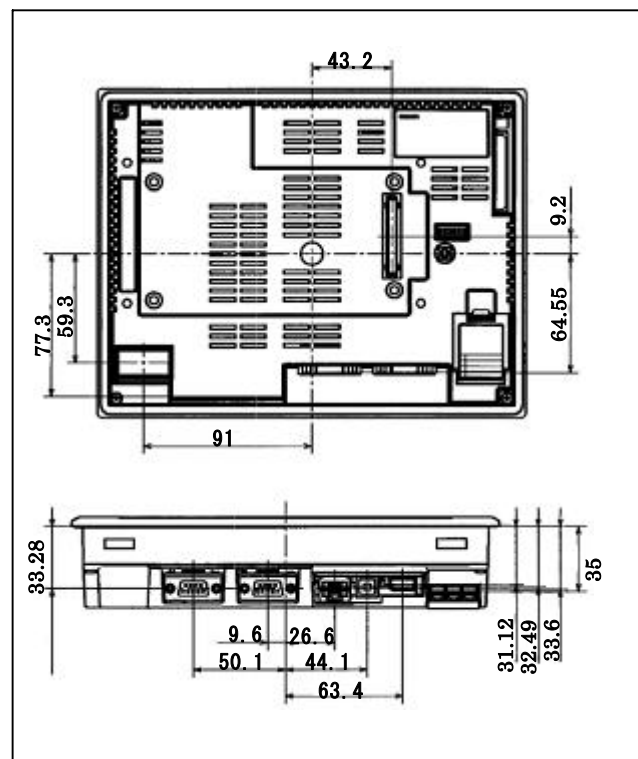
NT600SとNS8では電源端子台と各コネクタの位置が異なります。既存の盤内配線をそのまま使用する時は、場合によっては配線の変更が必要になります。

下記寸法図を参考に盤内配線を考慮願います。

NT600



NS8



1-3 : NT600Sの画面データコンバートについて

NT600SをNS8に置き換える場合、以下のルートでNS8に画面コンバートします。

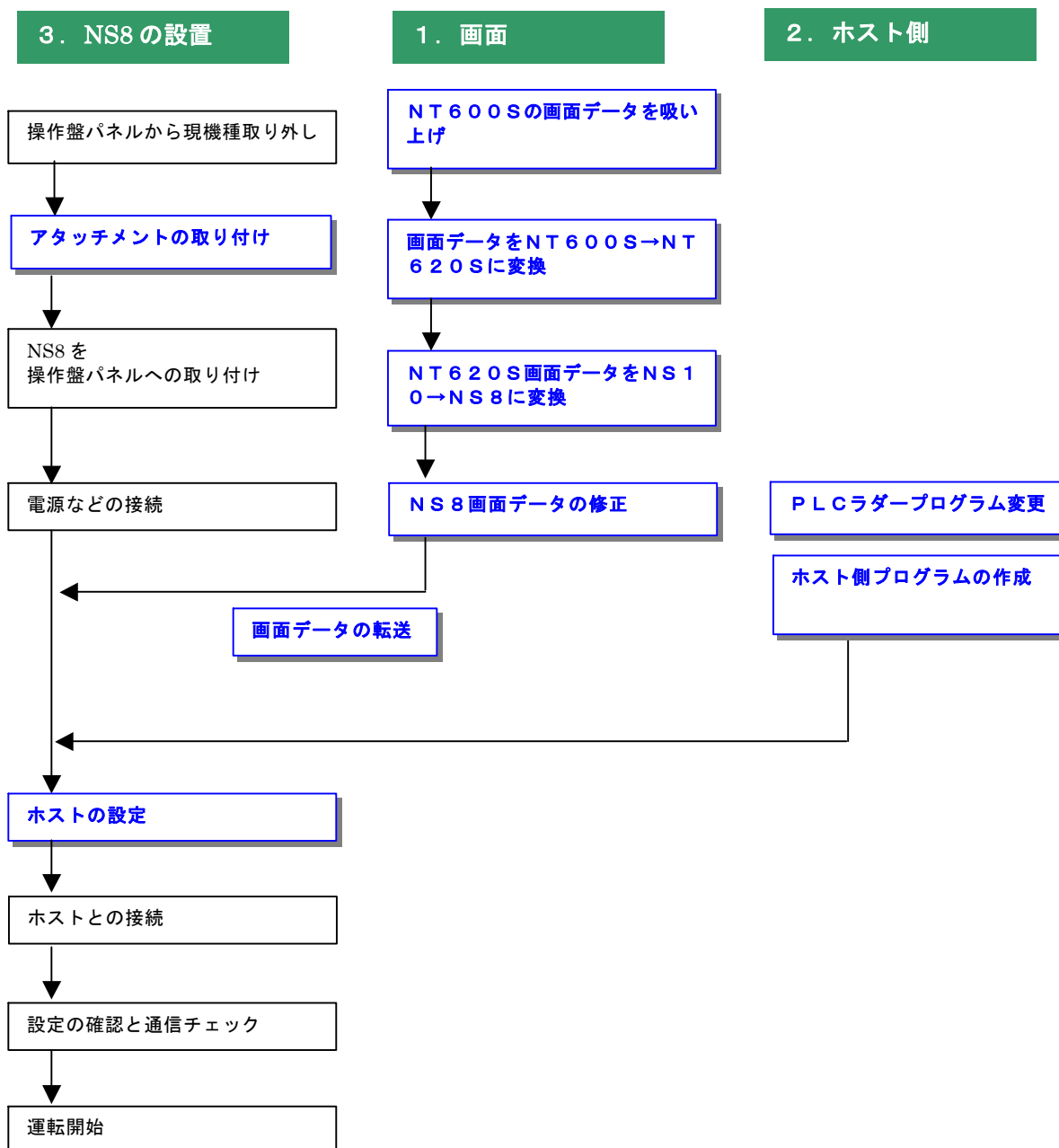
NT600S→NT620S→NS10→NS8

詳細はP7の「1-4-1) : 画面の置き換えについて」を参照願います。

1-4 : NS8へのリプレースの手順

NS8へのリプレースは以下の手順に従って置き換えて下さい。

NS8にリニューアルするまでの手順



1-4-1) : 画面の置換えについて

画面の置き換えに際しては以下のサポートツールが必要ですのでご用意願います。

■ 必要なツール

- ・ NT 統合ツール
形 NT-ZA3DV-V2 (DOS/V 版)
- ・ NT シリーズサポートツール Ver4 for Windows
形 NT-ZJCMX1-V4
- ・ NS 用作画ツール CX-Designer (Ver2.1 以上)
形 NS-CXDC1-V1
- ・ パソコン接続ケーブル
RS-232C 接続ケーブル 形 XW2Z-S002
USB シリアル変換ケーブル 形 CS1W-CIF31

1. NT600Sの画面データを吸い上げ

NT600Sの画面データには、画面データのダイレクトアクセスバージョンとしてVer4とVer5の2種類があります。ダイレクトアクセスバージョンによって画面の吸い上げに使用するNTツールが次表のように異なります。

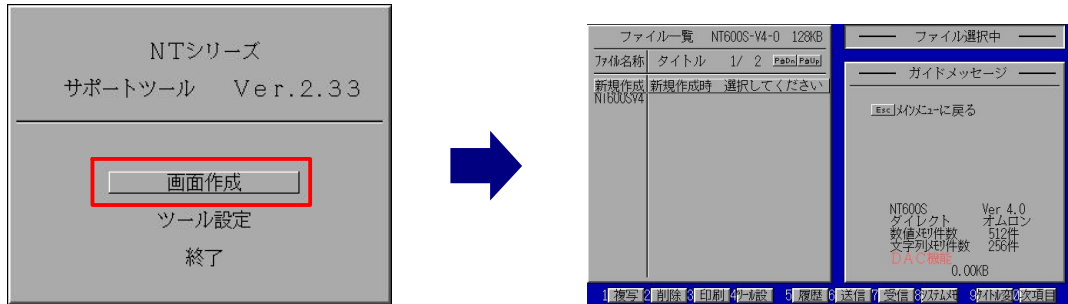
NT600Sの画面データダイレクトアクセスバージョンが不明のときは、NT統合ツール形NT-ZA3DV-V2 (DOS/V 版) をご使用ください。

ダイレクトアクセスバージョン	使用するツール
Ver4	NT統合ツール 形NT-ZA3DV-V2 (DOS/V 版) (NTシリーズサポートツール Ver4 for Windows 形NT-ZJCMX1-V4 は使用できません)
Ver5	NT統合ツール 形NT-ZA3DV-V2 (DOS/V 版) あるいは NTシリーズサポートツール Ver4 for Windows 形NT-ZJCMX1-V4

◆画面データがダイレクトアクセスVer 4のとき

DOS 版のNT統合ツール(形NT-ZA3DV-V2)を使用します。画面データを吸い上げ、その後ダイレクトアクセスバージョンをVer 4→Ver 5に変換し、NTSTツールにてインポートします。

1. NT600Sとパソコンを接続します。
2. NT統合ツール（形NT-ZA3DV-V2）を起動し、画面作成を押下しファイル一覧画面を表示します。



3. NT600Sを転送モードにします。
 - ・NT600Sの画面の4隅のうち任意の2点を同時に押してシステムメニューに入り、[転送モード]を選択し、NT600Sとパソコンを通信ケーブルで接続します。
4. NT統合ツールの「ファイル一覧」にて受信「F7キー」を押下し、受信ファイル名を入力後、**↓**を押下にて「データ受信開始」→「データ受信終了」を実施下さい。



ここでは例として SAMPLE と入力

4. データ受信が完了すると、4項にて入力したファイル名がファイル一覧に追加されています。



SANPLE がファイル一覧に追加されている

5. 「ツール設定」画面を以下の方法で「PT 機種 : NT600S ダイレクトアクセス : Ver5」に設定する
 ・「ツール画面にて形式選 (F1 キー) を押下し、本体 / ROM形式ダイアログを表示する。



F 1 キーを押下

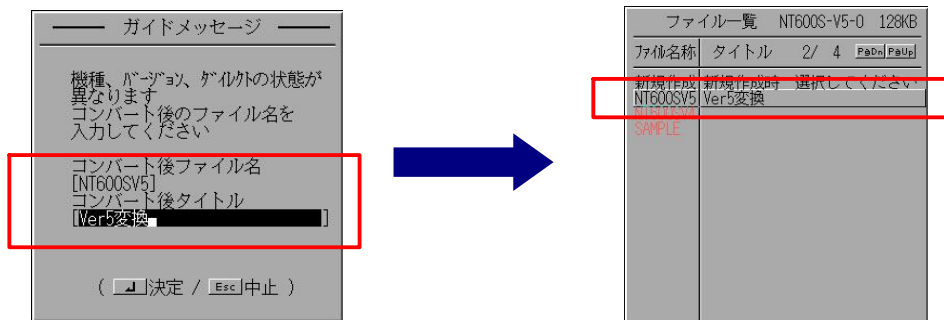
- ・ ↓、↑キーで次の形式を選択し、「ツール設定」を保存します。

本体 / ROM 形式	NT600S-ST***-V2
ダイレクト機種	オムロン / 三菱 A
アクセス	Ver5
備考	上位リンク・NTリンク (1 : N含む)・C200H

6. 「ファイル一覧」画面にもどると、4項で確認したファイルが赤字になっていますので ↓、↑キーでファイルを選択後 Enter キー押下してください。

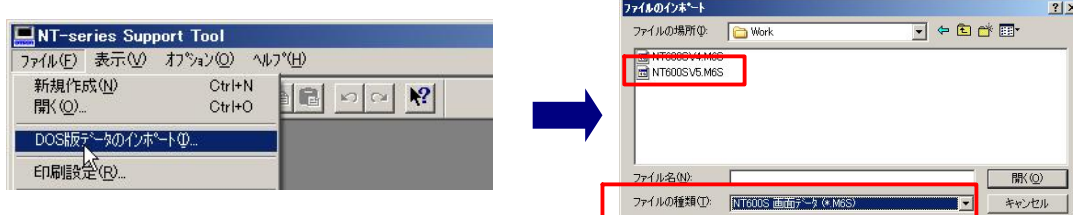


7. ガイドメッセージが以下ようになりますので、「コンバート後のファイル名」と「コンバート後のタイトル」を入力し、Enter キーで決定してください。
 画面データがダイレクトアクセス Ver5 に変換され、ファイル一覧に追加されます。



変換された画面は「ツール設定」のデータディレクトリに上記ファイル名で保存されています。

8. Ver 5に変換された画面データをNTSTツールで読み込めるようにインポートします。
- ・NTシリーズサポートツール（以降NTST）を立ち上げ、「ファイル」→「DOS版データのインポート」を選択し、「ファイルの種類」をNT600S画面データとし、7項で保存したファイルを選択する



- ・すると、DOS版画面データがNTSTデータに変換されます。

9. 変換後、P12の [2. NT600S画面→NT620S画面に変換](#) にて画面データをNT620Sに変換します。

◆画面データがダイレクトアクセスVer5のとき

Windows版のNTシリーズサポートツール（形NT-ZJCMX1-V4）を使用した場合の手順は次のとおりです。

（DOS版のNT統合ツール（形NT-ZA3DV-V2）を使用するときは、ダイレクトアクセス Ver4 のときと同様の手順で吸い上げることができます）

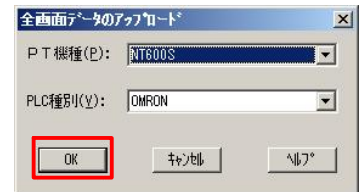
1. NT600Sとパソコンを接続します。
2. NTサポートツール側の通信設定をします。
メニューバーから[接続]→通信設定を選択し通信ポートと通信速度を設定します。



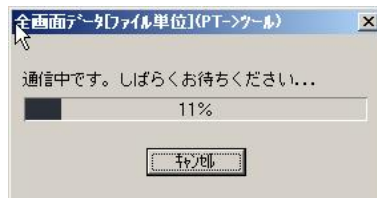
通信 Port の COM1～COM 8 を選択します

通信速度を選択します。

3. NT600Sを転送モードにします。
NT600Sの画面の4隅のうち任意の2点を同時に押してシステムメニューに入り、[転送モード]を選択して、転送モードメニューを表示して「サポートツール転送」を選択します。
4. NTサポートツールで画面データをアップロードします。
 - ・メニューバーから[オプション]→[アップロード]を選択し全画面をアップロードします。



- ・アップロード完了後、「OK」を押下します。



5. アップロード完了後、P12の 2. NT600S画面→NT620S画面に変換 にてNT600S画面データをNT620S画面データに変換します。

2. NT600S画面→NT620S画面に変換



P10およびP11にてNTST画面データに変換したNT600Sの画面を以下の手順でNT620Sに変換します。

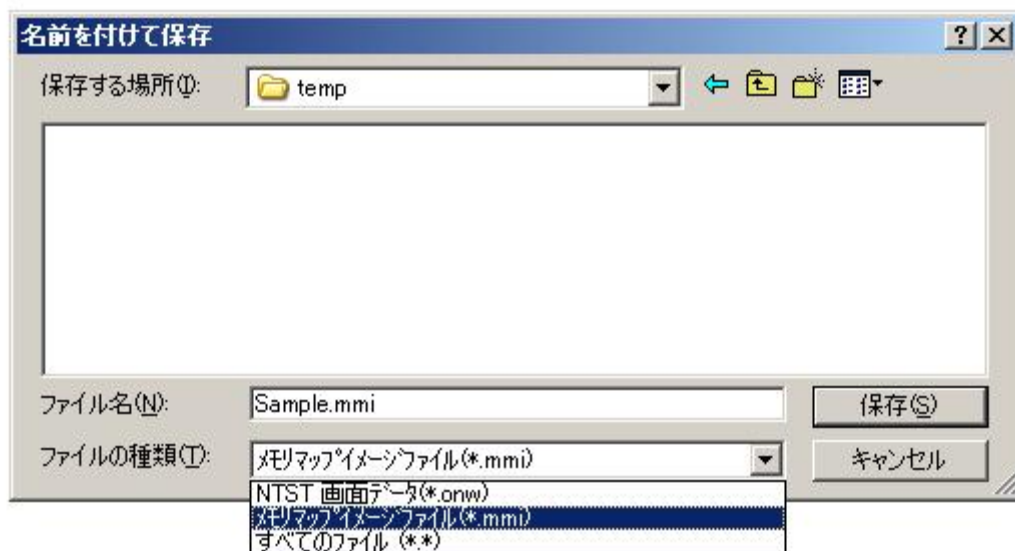
1. メニューバーから[ツール]→[PT環境設定]を選択し、「ツール設定」タブを表示させてPT機種をNT620Sに変更します。
そして画面データを一旦NT620Sに変換します。



PT機種をNT620Sとして指定

2. ファイルを以下の手順で.mmi形式で保存してください。
(当ガイドでは、Sample.mmiとして保存しています。)

「ファイル」→「名前をつけて保存」でファイルの種類を”メモリマップイメージファイル(.mmi)”とします。



3. 画面データをNS10→NS8に変換

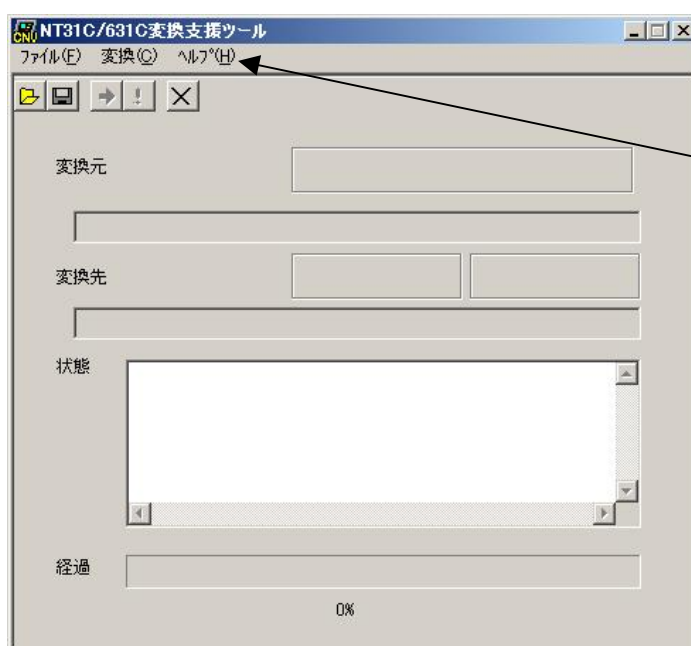
P12の [2. NT600S画面→NT620S画面に変換](#) にて保存したNT620S画面データ(.mmi形式)を以下の要領でまずはNS10に変換します。

(NT620S→NS10に変換した後、NS10→NS8に画面変換します。)

1. NT31C_NT631C変換支援ツールの起動

「NT31C_NT631C変換支援ツール」を次の手順で起動します。

- ・[CX-Oneをインストールした場合]
「スタートメニュー」→「全てのプログラム」→「Omron」→「CX-One」→「CX-Designer」
→「NT31C_631C変換支援ツール」
- ・[CX-Designer単体をインストールした場合]
「スタートメニュー」→「全てのプログラム」→「Omron」→「CX-Designer」→「NT31C_631C変換支援ツール」

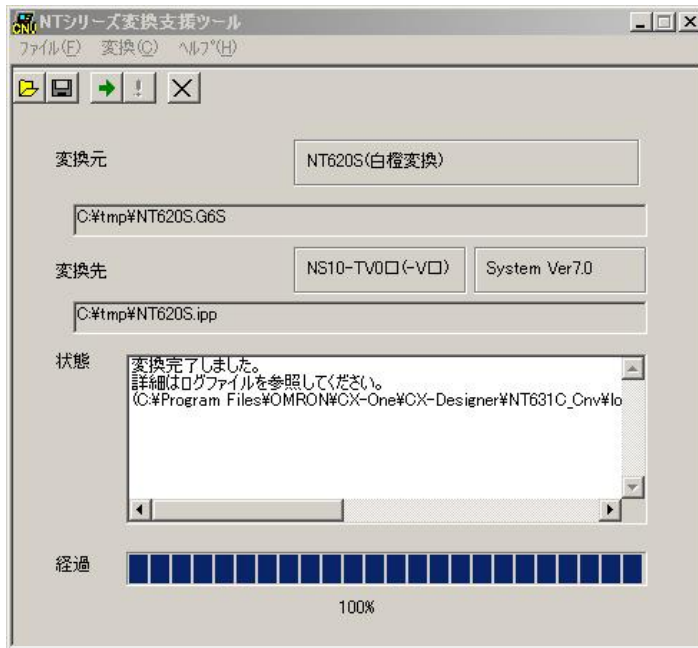


NT620S画面データ (**.mmi または **.G6S) を直接 NS10画面データに変換するには、**Ver4.10以降**の「NT31C/631C変換支援ツール」が必要です。
バージョンは「ヘルプ」→「バージョン情報」にて確認できます。

Ver4.10以降の「NT31C/631C変換支援ツール」は CX-DesignerVer2.1以降をインストールすると自動的にインストールされます。

2. NT620S→NS10画面コンバート

- ① 「ファイル」→「変換元ファイルを開く」で、P12の [2. NT600S画面→NT620S画面に変換](#) にて保存したファイル (**.mmi) を選択する。
- ② 「ファイル」→「変換後ファイルの保存先」にてファイルの保存先とファイル名を指定する。(例: NT620S.ipp)
- ③ 「変換」→「変換実行」にて変換を開始する。

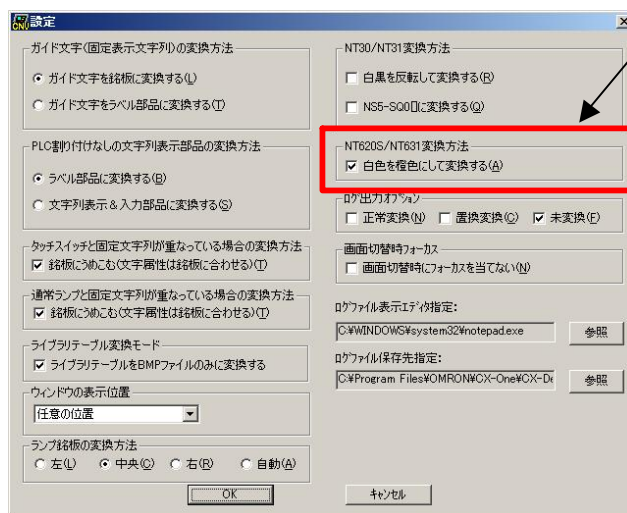


左記例は、変換元ファイル＝
C:\tmp\NT620S.G6S を変換
先フォルダー＝C:\tmp にNT62
0S.ipp として変換しています

- ④ 「NT31C__NT631C変換支援ツール」を終了します
変換完了後、「×」ボタンを押します。

3. NS変換画面をEL色（橙と黒）で変換したい場合

NT600SがELの場合、NS8に置き換え時表示色をEL表示（橙と黒）で変換したい場合は、「NT31C__NT631C変換支援ツール」の「設定画面」で



「NT631変換方法：白色を橙色で変換する」
にチェックを入れて下さい。

「NT31C__NT631C変換支援ツール」
の設定画面は「変換」→「設定」で開きます。

4. 「CX-Designer」を起動

「CX-Designer」を起動します。

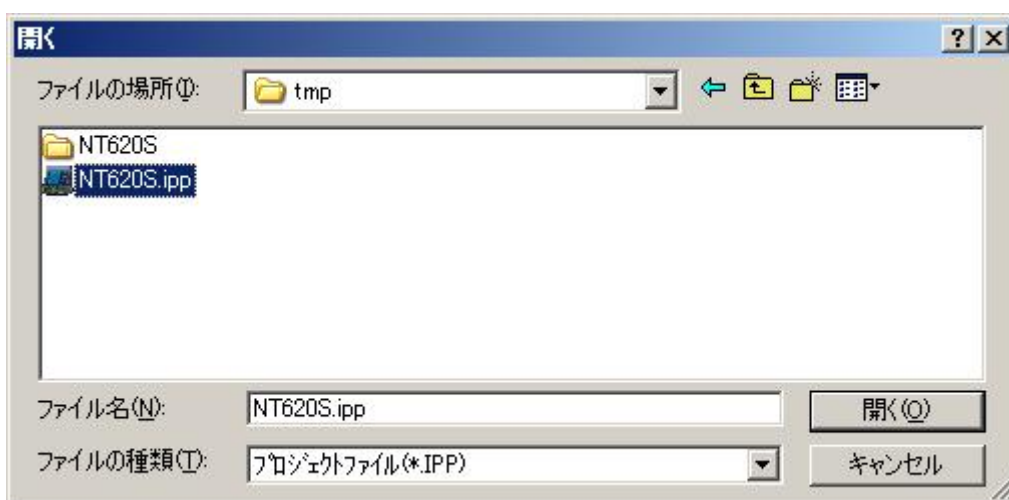
- ・ [CX-One をインストールした場合]
「スタートメニュー」→「全てのプログラム」→「Omron」→「CX-One」→「CX-Designer」
- ・ [CX-Designer 単体をインストールした場合]
「スタートメニュー」→「全てのプログラム」→「Omron」→「CX-Designer」

5. NS10→NS8画面コンバート

NS10画面を「CX-Designer」にてNS8に変換します。

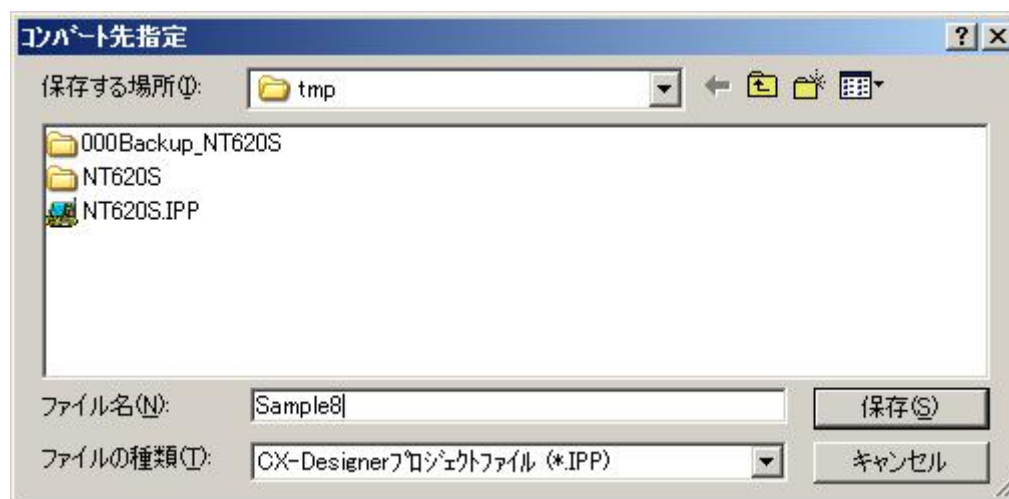
① NS10画面のプロジェクトを開きます。

[ファイル]→[プロジェクトを開く]にてP13の「2. NT620S→NS10画面コンバート」で変換先に指定したフォルダのファイル（ここではNT620S.ipp）を指定し、[開く]を押します。



② NS10→NS8に機種変更します。

[ツール]→[コンバート]→[機種]にて[NS8-TV0□-V2]を選択します。
変更先のファイル名（ここでは、Sample8.ipp）を指定し、「保存」を押します。



4. NS8画面データの修正

1) NS8変換後の画面データについて



NS8へ変換後の画面データは、変換元画面データがNT600S（640×400ドット）のため画面した80ドットが黒（背景色）のまま変換されます

NS8に変換後の画面データは画面下80ドットは黒のまま変換されます。



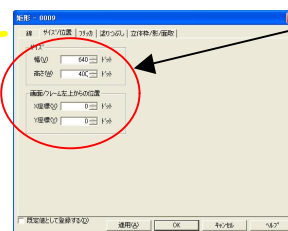
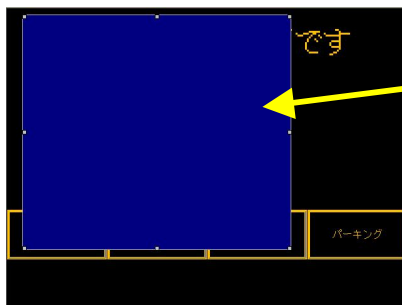
以下の手順で画面データを縦に1.2倍に拡大することでNS8の640×480ドットに拡大が可能です。

注意！

全画面をNS8の640×480に拡大するには、下記操作を全画面に対し実施する必要があります。

2) 画面データの拡大方法

①画面上に<図形>→<矩形>にて矩形図形を置き、プロパティにてサイズと位置を以下とし、「適用」または「OK」を押下します。



サイズ
幅：640ドット
高さ：400ドット
画面／フレーム左上からの位置
X座標：0
Y座標：0

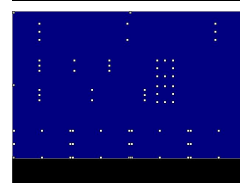
②「適用」または「OK」押下により画面は以下の様に矩形図形により画面が覆われます。



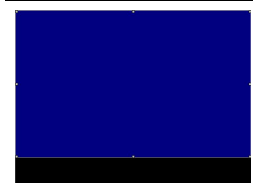
以下のショートカットキー操作を行い、画面データと矩形図形をグループ化します。

Ctrl+A (全て選択)

Ctrl+G (グループ化)

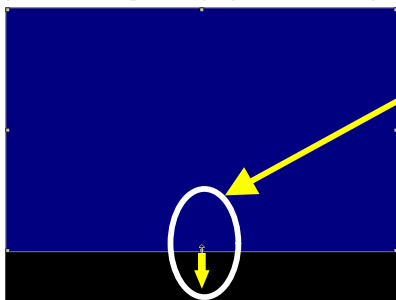


変換画面と矩形図形が選択されます。

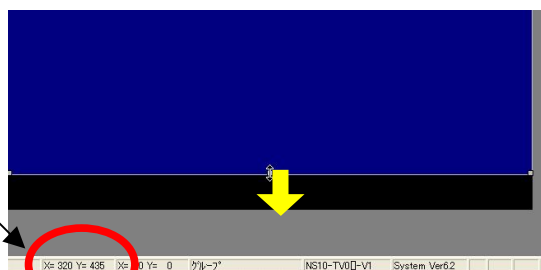


変換画面と矩形図形がグループ化されました。

③グループ化された画面データと図形を引っ張ります

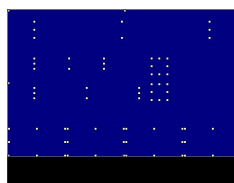
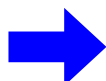
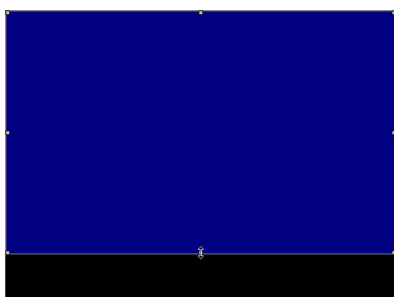


グループ化された部品の中央下部にカーソルを当て左クリックにて部品をつまみ下側に引っ張って下さい。



画面下側に現在のカーソル位置が表示されますのでY座標が480（画面の黒い部分まで）になるまで部品を引っ張って下さい。

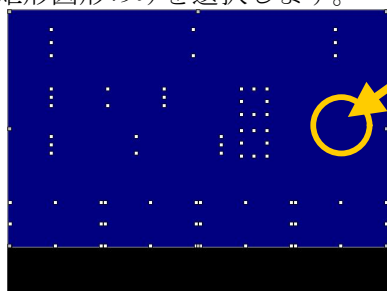
④画面データと矩形図形のグループ化の解除



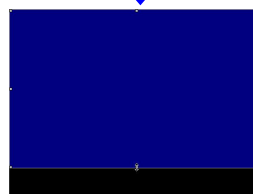
Ctrl+U（グループ化解除）ショートカットキーにより、画面データと矩形図形のグループ化をはずします。

Ctrl+U（グループ化解除）実行

⑤矩形図形のみを選択します。

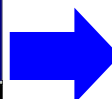
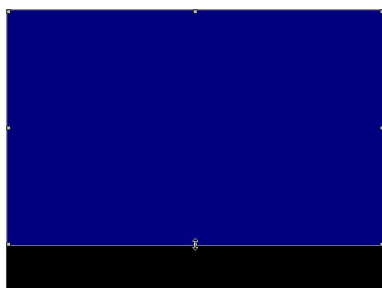


部品の何も無い所をクリックし、矩形図形を選択します。



矩形図形のみが選択されました。

⑥矩形図形を削除します。



矩形図形が選択された状態でDELキー（または右クリック）を押下し、矩形図形を削除します。

するとNS8の全画面にNT600S画面が拡大されます。

5. NS8 変換画面の修正

NT600S画面データがNS8画面データに変換されましたが、NT600SとNS8では互換性がない箇所がありますので、変換後のNS8の画面データの修正が必要になります。修正箇所に関しては、付録「NT→NS画面変換後の注意点」を参照願います。

6. 画面データの転送

CX-Designerにて上記の修正画面をNS8に転送します。

- ①転送方法を選択します。
[PT]－[転送]－[転送設定]にて通信方式（USB、Serial等）を選択します。
- ②画面データを転送します。
[PT]－[転送]－[転送[パソコン→PT]]を選択します。

1-4-2) : ホスト側プログラムの変更について

ホスト側がPLCのとき

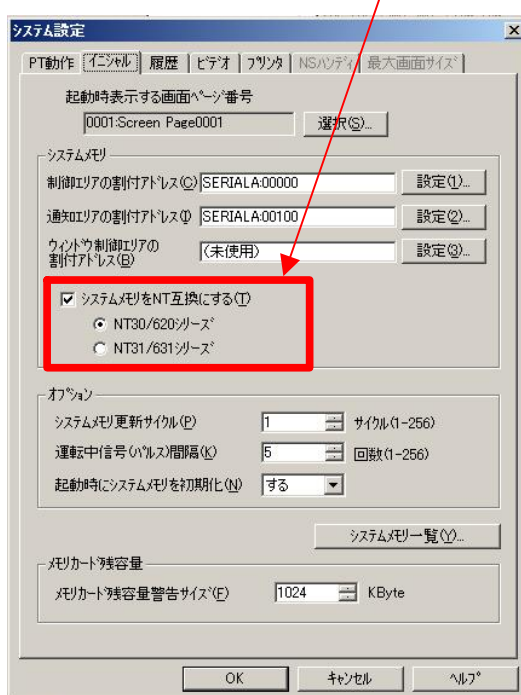
1. PLCラダープログラム変更

PTにはPLC-PT間で情報をやり取りするエリアがあります。この情報をやり取りするエリアを、NTシリーズでは「PT状態制御エリア/PT状態通知エリア」、NSシリーズでは、「システムメモリ」と呼びます。

NTシリーズの「PT状態制御エリア/PT状態通知エリア」とNSシリーズの「システムメモリ」では、メモリ構成に違いがありますが「NT31C_631C変換支援ツール」Ver 4.10以上を使用しますと、変換後のNSシステムメモリがNT600Sの「PT状態制御/通知エリア」と互換性のある形（NT30/620シリーズ互換モード）で変換されます。

◆NT30/620互換モードについて

「NT31C_631C変換支援ツール」Ver 4.10以降を使用しますと、NT620S → NS10変換時に「NT30/620シリーズ互換モード」で変換されます。



「システム設定」を表示するには、プロジェクトワークスペースの「システム」タブを選択してください。

◆ 「NT30/620互換モード」のシステムメモリについて

「NT30/620互換モード」ではNSのシステムメモリが以下のように変換されます。

状態制御エリア				状態通知エリア			
オフセット	ビット	内容	NSシステムメモリでのアドレス	オフセット	ビット	内容	NSシステムメモリでのアドレス
制御エリア				通知エリア			
+0	0-15	画面番号(PLC→PT)	\$SW0	+0	0-15	画面番号(PT→PLC)	\$SW0
+1	0-15	予約		+1	0-15	予約	
+2	0-15	予約		+2	0-6	予約	
+3	0	予約		+2	7	ツリ込み稼働状況	\$SB30
+3	1	アラーム履歴初期化(NT31/631)	\$SB32	+2	8-11	予約	
+3	2-6	予約		+2	12	画面切換スロープ	\$SB2
+3	7	画面印刷	\$SB25	+2	13	バッテリー	\$SB4
+3	8	バックライトモード	\$SB10	+2	14	予約	
+3	9	断続フザー(長音)	\$SB14	+2	15	PT稼働状況	\$SB1
+3	10	予約					
+3	11	アラーム履歴初期化(NT30/620)	\$SB32				
+3	12	断続フザー(短音)	\$SB13				
+3	13	連続フザー	\$SB12				
+3	14-15	予約					

「NT30/620互換モード」を使用しても以下の ➡ 印部は対応する機能がNSにありませんのでご了承願います。

PT状態制御エリア

PLCのCH	NT600Sの割付	NSのシステムメモリ
n	画面番号：画面切替指定 (BCD4桁)	\$SW0
➡ n+1	コピー元メモリテーブル番号 (BCD3桁)	機能なし
➡ n+2	コピー先メモリテーブル番号 (BCD3桁)	機能なし
n+3	PT状態制御ビット	\$SB* 次ページの「PT状態制御ビット」 を参照して下さい。

PT状態制御ビット

ビット	NT600Sの状態制御ビット	NSのシステムメモリ
15	画面表示 する／しない	機能なし
14	未使用：常に0	—
13	連続ブザー 鳴らす／止める	\$SB12
12	断続ブザー（短音） 鳴らす／止める	\$SB13
11	未使用：常に0	—
10	未使用：常に0	—
9	未使用：常に0	—
8	バックライトモード 点灯／点滅	\$SB10
7	未使用：常に0	—
6	未使用：常に0	—
5	未使用：常に0	—
4	未使用：常に0	—
3	未使用：常に0	—
2	未使用：常に0	—
1	未使用：常に0	—
0	未使用	—

PT状態通知エリア

PLCのCH	NT600Sの割付	NSのシステムメモリ
m	画面番号（表示中画面）	\$SW0
m+1	数値・文字列メモリテーブル番号 （BCD 3桁）	機能なし
m+2	PTステータス通知ビット	\$SB* 下記「PTステータス通知ビットの 対応表」を参照して下さい。

PTステータス通知ビット

ビット	NT600SのPTステータス通知ビット	NSのシステムメモリ
15	PT稼動状況 運転中／停止中	\$SB1
14	未使用：常に0	—
13	バッテリー 低下／正常	\$SB4
12	画面切替ストローブ 切替あり／なし	\$SB2
11	数値入力ストローブ 入力あり／なし	機能なし
10	未使用：常に0	—
9	未使用：常に0	—
8	未使用：常に0	—
7	未使用：常に0	—
6	未使用：常に0	—
5	未使用：常に0	—
4	未使用：常に0	—
3	未使用：常に0	—
2	未使用：常に0	—
1	未使用：常に0	—
0	未使用：常に0	—

ホスト側がパソコンやコンピュータで、RS-232C コマンドで通信しているとき

2. ホスト側プログラムの作成

RS-232C (コマンド) 通信とは、ホスト側のパソコンやマイコンボードとNT600Sとの間の通信をコマンドで行う方式です。NT600SとNSシリーズとでは、PT内部のメモリ構成が異なり通信コマンドに互換性がないので、ホスト側のプログラムの作り変えが必要です。

◆通信コマンドの違いによるホスト側プログラム作成

NT600SとNSシリーズとの「PT内部のメモリ構成」と「通信コマンド」の違いを次表の比較表で示します。

NSシリーズには各種メモリテーブルがありませんので、各種メモリテーブルの読出／書込等は直接PTメモリの読出／書込コマンドを使ってNT600Sと同じ動きをするようにホスト側プログラムを変更してください。

PT内部のメモリ構成比較表

PTメモリ	NTシリーズ	NSシリーズ		
	なし	接点	\$B0~32767	\$HB0~8191
		チャンネル	\$W0~32767	\$HB0~8191
メモリテーブル	数値メモリテーブル 文字列メモリテーブル ビットメモリテーブル	なし		
バッテリー バックアップ	される	されない	される	

ホスト側通信コマンド

NT600S RS-232C 通信コマンド		NSシリーズ メモリリンク	
[ESC]0	指定画面表示		(コマンドなし)
[ESC]X	画面番号問い合わせ		(コマンドなし)
[ESC]B	文字列メモリテーブル書込み		(コマンドなし)
[ESC]C	数値メモリテーブル書込み (4桁)		(コマンドなし)
[ESC]D	数値メモリテーブル書込み (8桁)		(コマンドなし)
[ESC]/	メモリテーブルコピー		(コマンドなし)
[ESC]K	ランプ・タッチスイッチ表示 (ビット指定)		(コマンドなし)
[ESC]Q	ランプ・タッチスイッチ表示 (番号指定)		(コマンドなし)
[ESC]R	ランプ・タッチスイッチ表示状態問合せ		(コマンドなし)
[ESC]U	タッチスイッチ入力禁止設定		(コマンドなし)
[ESC]V	タッチスイッチ入力禁止解除		(コマンドなし)
[ESC]P	画面表示制御		(コマンドなし)

[ESC]T	ブザー制御		(コマンドなし)
[ESC]W	システムメニュー表示		(コマンドなし)
[ESC]Z	P T内部状態問合せ		(コマンドなし)
[ESC]]	表示履歴初期化		(コマンドなし)
[ESC]_	表示モード制御		(コマンドなし)
[ESC]Y	画面番号問合せ応答		(コマンドなし)
[ESC]E	数値設定入力通知 (4桁)		(コマンドなし)
[ESC]F	数値設定入力通知 (8桁)		(コマンドなし)
[ESC]S	ランプ・タッチスイッチ表示状態応答		(コマンドなし)
[ESC]J	タッチスイッチビット出力 (N T 6 0 0 Sからホスト)		(コマンドなし)
[ESC]H	タッチスイッチ番号出力 (N T 6 0 0 Sからホスト)		(コマンドなし)
[ESC][PT内部状態問合せ応答		(コマンドなし)
		RM	PTメモリ (\$W) 読出
		RB	PTメモリ (\$B) 読出
		WM	PTメモリ (\$W) 書込
		WB	PTメモリ (\$B) 書込
		FM	PTメモリ (\$W) 一括書込 (FILL)
		FS	PTメモリ (\$B) 一括書込 (FILL)
		SM	P Tメモリ (\$W) 変更通知
		SB	P Tメモリ (\$B) 変更通知
		ER	エラーレスポンス
		RD	PTメモリ (\$HW) 読出
		RH	PTメモリ (\$HB) 読出
		WD	PTメモリ (\$HW) 書込
		WH	PTメモリ (\$HB) 書込
		FD	PTメモリ (\$HW) 一括書込 (FILL)
		FH	PTメモリ (\$HB) 一括書込 (FILL)
		SD	P Tメモリ (\$HW) 変更通知
		SH	P Tメモリ (\$HB) 変更通知

1-4-3) : NS8の設置について

NS8を制御盤に取り付け、PLCと接続します。

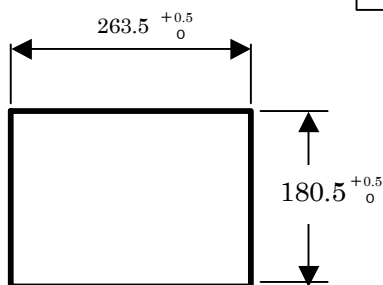
1. アタッチメント (NS8-ATT01) の取り付け

NS8はNT600Sと比べサイズが小さく、パネルカット寸法も小さくなっています。
NT600Sを取り付けていた制御盤にNS8を取り付ける場合は、下記のアタッチメントを制御盤に取り付けた後、NS8を取り付けて下さい。

NT600S→NS8用アタッチメント：形NS8-ATT01

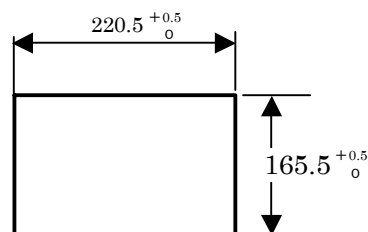
◆パネルカット寸法の違いとアタッチメント

●NT600S 推奨パネルカット寸法



+公差
-公差

●NS8 推奨パネルカット寸法



●NS8 取り付け用アタッチメント
形 NS8-ATT01



2. NS8の操作盤への取り付け

アタッチメントを取り付けた後、NS8を取り付けます。
取り付けはNS8付属の専用取り付け金具を使用します。

3. 電源などの接続

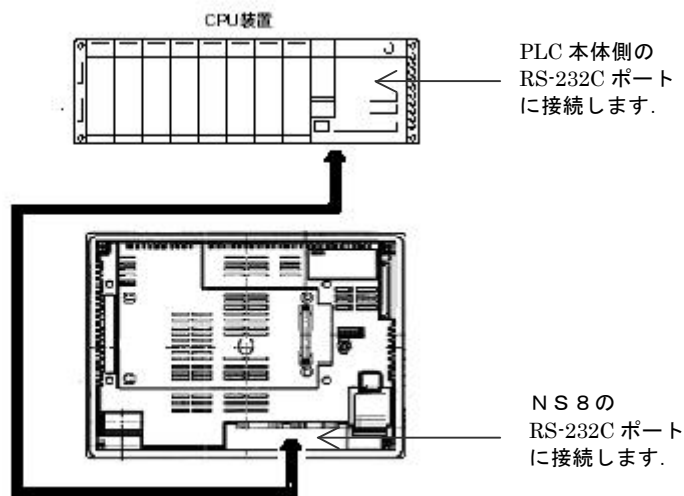
NT600SとNS8は電源端子台やコネクタの位置が異なります。
P5の「1-2：電源端子台と各コネクタの位置について」を参照し、電源線や通信ケーブル等の接続をします。

4. C200H I/F置き換え時の通信ケーブル接続方法

NT600SのC200H I/F通信→NS8の上位リンクあるいはNTリンクに置き換えは、C200HのCPUユニットのRS-232Cポートを使用します。

- ◆C200HのCPU装置にRS-232Cポートが使用できる（空いている）場合はそのポートに接続します。
- ◆C200HのCPU装置のRS-232Cポートが使用できない場合は、PLCのCPU装置に上位リンクユニットあるいはコミュニケーションボードを新たに装着する必要があります。
- ◆PLC側がC200Hシリーズの場合も同様に、CPU装置のRS-232Cポートに接続します。
C200HシリーズでRS-232Cポートが使用済みの方は、通信ユニットが増設できませんのでNS8への置き換えはできません。

◆NS8の上位リンク/NTリンクの通信ケーブル配線



5. NS8の通信設定

PLCとの通信方式等の通信設定をNS本体のシステムメニューで設定します。

システム設定

- ・ NS本体のタッチパネルの4隅のうち任意の2個を同時に押し「システムメニュー」に入ります。
- ・ 「システムメニュー」の画面の「通信設定」タブを押します。
- ・ 通信方式や通信条件を設定します。
- ・ 通信以外にもPT動作にかかわる各種設定を行います。

設定内容の詳細については「NSシリーズセットアップマニュアル (SBSA-517)の6章「システムメニューの操作」を参照ください。

補足：通信設定やシステム設定は、CX-Designerのプロジェクトワークスペースの「通信設定」、「システム設定」で設定することができます。